

中高学年グループの取り組み

鈴木 弦

子ども達の様子や親御さんの話から、中学年高学年になると「子ども同士でのやり取りができる」「自分のことは自分でできる」「自分自身の特性を理解している」ことの大切さを強く感じます。今回は、こうした中学年高学年の課題に対するグループ指導での取り組みについての紹介をしたいと思います。

① 子ども同士でのやり取りができる

中高学年になると友だち同士のやり取りの中にも抽象的な表現が増えてきます。指導では、SSTを目的としたワークシートなどを用いて曖昧さや含みのある表現の意味合いや、暗黙のルールなどについての指導をしています。先日行ったある指導では、「遠慮・謙遜・卑下の違い」というテーマを取り上げて行いました。そういった表現が何のために行われるのか、使っている人の気持ちを推測しながら行いました。こうしたことは、実際の生活場面で気づくことや活用していくことには難しさはありますが、まずは「そういうことがあるんだ」と知っておくことが大切です。

子ども同士で約束やルールを決めて遊んだり、計画を立てて近場に出かけたりするようになるのもこの頃です。指導では、みんなで相談して計画を立て、町田のボウリング場や新横浜ラーメン博物館などに出かけたりしています。親御さんからは「社会科見学の際にみんなで行動する練習になった」と感想をいただくこともありました。

② 自分のことは自分でできる

この時期は自分でできることや、自分でできることは自分でやるよう意識を伸ばせるいい時期です。中高生のお子さんに「歯を磨きなさい」「お風呂に入りなさい」と毎日言い続けて

も段々と言うことが聞けなくなってしまうこともあります。素直に取り組めるこの時期に、基本的な生活習慣や、生活技術を身に着ける機会をお子さんにもたせたいものです。

指導では、日常生活の中で、身だしなみや整理整頓を心がけるための宿題や、自分で簡単な調理をする宿題などを出すことにしています。一度取り組むと、パターンのように取り組めるようになるお子さんも多くいますし、自分からやるのがなくても、きっかけさえあれば取り組むことができるお子さんにとってはいい機会になります。夏に「そうめんを作ろう」の調理宿題を出したときは、初めてにもかかわらず、本格的にだしを取ってつゆを作ってくれたお子さんもいました。

また、前述したような外出をする際には現地集合とし、集合時間に間に合うよう現地までの行き方を調べることも行いました。こうした体験を経て、今では一人で自宅からセンターまで来るようになった高学年のお子さんもいます。

③ 自分自身の特性を理解している

自分自身の特性を知り、それを周囲に上手く伝えられることがとても大切なことになります。指導では、PCソフトを使い、自分についてのプレゼンテーションを行う「自分スライド作り」やラーメン会社について調べ、主力製品のラーメンについて「自分の五感からの感想を伝える」などの取り組みを行いました。PCの操作やタブレットを使った調べ物が得意なお子さんも多く、長所を活用した指導が行えました。

今回紹介した内容は指導の一例ですが、ご家庭内でも、こうした視点も取り入れてみてはいかがでしょうか？